■ 修士論文要旨

日本中小企業のグローバル化

―中小自動車部品メーカーのASEANへ進出の一考察―

The Globalization of Japanese small and medium enterprises
―A study of automotive parts manufacturers in ASEAN―

神奈川大学大学院　経営学研究科
国際経営専攻　博士前期課程

李　　峰

LI, Feng

■キーワード
日本中小自動車部品メーカー、ASEAN、中国、進出、比較

要旨

自動車は一台あたり3万点を超える部品で構成されている。また日本の自動車メーカーの約70%以上が外部の部品メーカーから部品を購入している。自動車メーカーを支えているのが自動車部品メーカーである。さらには、日本の自動車産業を支えているのは自動車部品産業とも言える。また、両者は相互依存の関係でもある。

しかし、近年、自動車産業の競争が増々激しくなってきており、日本の数多くのメーカーはよりコストダウンして、利益を確保し、競争力を維持するために、海外に進出している現状である。特に、新興国では低価格車の需要が多くなっているので、日本自動車メーカーが低価格車を新興国に投入しつつある。日本の自動車メーカーがASEANと中国などの新興国に進出し、それらの国で次々と生産拠点を設立した。その結果、自動車部品メーカーも納入先と一緒に海外に生産拠点を設立し、進出を進めている。そして、部品メーカーとしての中小部品メーカーも納入先、すなわち第一次部品メーカーとともに、海外への拠点設置している。

主要な進出先として、ASEANと日本の関係はかなり深い。特に、2013年は日本とASEANにとってはかなり重要な一年である。その原因は、2013年まで日本とASEAN両国の交流活動がちょうど40周年に迎えた。ASEANと日本の交流は1973年に合意した日本・ASEAN合成ゴムフォーラムにより始まった。ASEANは1967年に発足したが、ただの6年間を経て、ASEANと日本は交流し始めた。ASEANと正式な交流行為を行った国の中で、日本は第一と見られる。現在安全保障、経済、文化など様々な方面から見ると、日本にとって、ASEANはかなり重要な地域である。もっと大きく言うと、日本だけではなく、世界中でもASEANが今重要な地域として見られている。

本論文では、日本の中小自動車部品メーカーのうち、特に自動車産業の「ピラミッド」の基盤としての2、3次の中小自動車部品メーカーを主要な研究対象とする。ASEANとこれらの中小部品メー

カーの研究を通じて、すなわち中小自動車部品メーカーはASEANに進出する際に、どのような問題があったのかを見つけ出す。また、ASEANと中国との比較に関する研究を通じて、将来日本の中小自動車部品メーカー海外進出に関する予想と自分の考えを示したいと考える。

本論文の第一章では、日本自動車部品産業の歴史から分析し、日本自動車産業の特有構造と日本自動車産業の部品開発方式の研究を行い、日本自動車部品メーカーに関する基本情報を整理した。そして、日本中小自動車部品メーカーの現状を論じた。

第二章では、ASEANの歴史とASEANと日本の関係に関する研究を行った。ASEANの歴史は創立期、拡大期と発展期の3つの部分に分けてASEAN設立の経緯について詳しく述べた。ASEANと日本の歴史については、同様に3つの部分に分けた。この3つの部分は、日本とASEANの交流開始から、ASEANでの反日運動と近年日本がASEANへの投資が活発化している状況までであった。これらの研究を通じて、ASEANに関する基礎的な知識を了解し、ASEANと日本の主として政治・経済的な背景を明らかにした。

そして、第三章の内容は、主に事例研究であった。主に株式会社秦野精密、有限会社タカモリ製作所および三栄精工株式会社は、ASEANに進出している日本中小自動車部品メーカーであった。そして、ほかの中小自動車部品メーカーがASEANに進出する際の問題点も企業研究として加えた。これらの事例研究を通じて、中小自動車部品メーカーがASEANに進出する際に存在している主要な4つの問題点を発見した。すなわち、納入先からのコストダウン要請、人材確保と現地従業員の育成問題、「E」に対する重視と共同進出の場合存在している問題点の4つであった。

その中で、環境問題は中小自動車部品メーカーにとって、特に近年になって注目されるようになった問題である、今後重視しなければならない問題であると考える。そして、これらの問題はASEANに進出する中小自動車部品メーカーだけではなく、海外に進出する中小企業にとっても、共通の問題であり、海外進出の際に注意しなければならない。

最後の章では、ASEANと中国市場の比較を行った。この章で、海外進出を検討する中小自動車部品メーカーを仮定した。仮設した企業にとって、資金、人材などの様々の条件が全く同じの場合だったら、中国に進出すべきか、ASEANに進出すべきかについてを、人件費、自然災害、政治の安定性と不安定要素の4つの方面から分析した。人件費の面では、中国のほうが近年かなり高い上昇率で上がり、現在はASEAN地域より高くなったので、ASEANのほうが有利だと考える。自然災害の面から見れば、タイの大洪水が日本企業に大きい影響を与えたことがあったが、中国現在の「PM2.5」問題もかなり深刻な問題ではないかと考えられる。確かに中国とASEANの問題は同じくらいであるが、「PM2.5」の問題はより重大な問題ではないかと考えられる。政治の安定性では、中国の反日感情と反日運動がASEANより圧倒的に日本企業に大きい影響を与えるので、中国の方が不利だと考えられる。そして、最後不安定要素について、中国は不動産バブルがあり、ASEANの設立当初の法的な拘束力がない「宣言」であるという点で、両方とも将来的に不利だと考えられる。

つまり、結論としては、仮設の中小自動車部品メーカーにとって、ASEANと中国を選択する場合、ASEANの方が良いと考えられる。これも中小自動車部品メーカーだけではなく、海外進出を検討する中小企業に対しても、適用できるのではないかと考えられる。そして、本論文の問題点と観点が、日本の中小自動車部品メーカーのASEAN進出における一助となることを期待する。